

理想、追加予定子ども数に対する主観的な豊かさの影響
—Eurobarometer のデータを用いた分析—
The Effects of Subjective Affluence on the Ideal Number of Children and
Additionally Intended Number of Children
: Analysis using Eurobarometer Survey Data

増田幹人 (駒澤大学)

Mikito Masuda (Komazawa University)

miguitmm@komazawa-u.ac.jp

本研究は、Eurobarometer の個票データ (2011 年) を用いることにより、理想子ども数と予定子ども数の決定要因の影響について、多変量解析に基づき検証を行う。ここでは、主観的な豊かさに着目し、①将来の見通し、②満足度、③現状の豊かさが、理想子ども数と追加予定子ども数に対していかなる影響を及ぼすのか、またこれらに違いが見られるのかどうかについて分析を行う。さらに、比較の意味で、国全体の豊かさが、理想子ども数や追加予定子ども数、およびそれらの国ごとのばらつきに影響を与えているかどうか、また理想子ども数と追加予定子ども数でこれらに違いがあるのかどうかについて検証を行う。

先行研究を見る限り、主観的な豊かさである将来の見通し、満足度、現状の豊かさが理想子ども数、追加予定子ども数に及ぼす影響について多変量解析に基づき明らかにし、比較検証を行っている例は見当たらず、これらの点は新規性があると考えられる。また、マクロの豊かさが理想子ども数と追加予定子ども数に及ぼす影響について、多変量解析に基づき比較検証する点も新規性がある。さらに、主観的な豊かさは現実の経済との関連から重要な要素であるが、これが実際の出生行動の重要な決定要因である理想子ども数や追加予定子ども数に及ぼす影響を見ることは、政策的な観点からも重要である。

Eurobarometer は、EU 諸国を対象とした個票データを収集しており、主観的な項目が充実している。ここでは、Eurobarometer の個票データを用いることにより、理想子ども数と追加予定子ども数を被説明変数とするモデルを推定する。理想子ども数は、“And for you personally, what would be the ideal number of children you would like to have or would have liked to have had?” という質問に対する回答に基づくものであり、追加予定子ども数は、“How many (more) children do you intend to have?” という回答に基づくものである。説明変数は、上記の主観的豊かさを含む諸変数であり、以下の通りである。

①将来の見通し (“What are your expectations for the next twelve months: will the next twelve months be better, worse or the same, when it comes to...?” に対する回答)。②満足度 (“On the whole, are you very satisfied, fairly satisfied, not very satisfied or not at all satisfied with the life you lead?” に対する回答)。③現状の豊かさ (How would you judge the current situation in each of the following?” に対する回答の 14 項目の平均値)。④性別、⑤都市の規模、⑥教育水準 (フルタイム教育を止めた年齢を四区分 (教育低水準、教育中水準、教育高水準、在学中) し、教育低水準を基準とする順序ダミー変数)。⑦就業状態 (就業、失業、非就業について、就業を基準とする順序ダミー変数)、⑧婚姻状況 (独身、結婚、同棲、離別について、独身を基準とする順序ダミー変数)。⑨子

どもの有無、⑩国ダミー、⑪1人当たり GDP（マクロの豊かさを表す変数）。

理想子ども数は、持ちたいと思う子どもの数を表す出生選好であり、家族規模に関する社会規範を反映するものである。他方、追加予定子ども数は、子どもを持つことに関する個人の計画を表し、個人の規範を反映するものである。その意味においては、理想子ども数と追加予定子ども数は異なる性質を持つが、いずれも同じような要因に影響を受けることが先行研究で示されている。したがって、理想子ども数と追加予定子ども数それぞれを被説明変数とするモデルについては、同じ説明変数を組み入れている。

まずマクロの豊かさを考慮に入れないモデルの推定方法としては、理想子ども数と追加予定子ども数いずれも4段階の回答として設定していることから、順序ロジットで推定している。また、マクロの豊かさを考慮に入れたモデルについては、この順序ロジットとマルチレベルを併せた方法で推定している。

まず、マクロの豊かさを考慮に入れない、順序ロジットで推定したモデルについての主な推定結果は、以下の通りである。将来見通しについては、理想子ども数、追加予定子ども数いずれについても有意に正であり、両者はほぼ同じ大きさであった。満足度については、理想子ども数、予定子ども数いずれについても有意に正であり、理想子ども数よりも追加予定子ども数の方がパラメータは大きかった。現状の豊かさについては、追加予定子ども数では有意に正だが、理想子ども数では有意でなかった。

マクロの豊かさを考慮に入れた、順序ロジットとマルチレベルを併せた方法で推定した主な結果は以下の通りである。追加予定子ども数については、国全体の1人当たり実質 GDP を含むモデルと含まないモデルとを比較すると、含むモデルの方が国レベルの分散は小さくなっていた。ただし、1人当たり実質 GDP は負で有意であった。他方、理想子ども数については、国全体の1人当たり実質 GDP を含むモデルと含まないモデルとを比較すると、含むモデルの方が国レベルの分散は小さくなっており、1人当たり実質 GDP は正で有意であった。このように、国全体の豊かさは国ごとの理想子ども数と追加予定子ども数のばらつきに影響を与えていることが示唆された。

以上の結果をまとめると以下の通りとなる。満足度、将来見通しは、理想子ども数、追加予定子ども数いずれに対しても有意な正の影響を及ぼす一方、現状の豊かさは追加予定子ども数に対してのみ有意な正の影響を与えていた。具体的な経済状態に働きかける政策（現状の豊かさを高める政策）は出生選好に対して作用しにくいことが示唆される。他方、国レベルでの豊かさは、国ごとの理想子ども数、追加予定子ども数のばらつきに対して影響を及ぼしており、ミクロの主観的豊かさの影響をある程度まで包含している可能性がある。

少子化対策を策定する際には、実際の出生のみならず、追加予定子ども数や理想子ども数に対しても働きかける政策が必要である。またこの場合、具体的な経済状態に働きかける政策のみならず、マインドをプラスにする多面的な政策（将来の見通しや満足度を良くする政策）も必要であると考えられる。